

政策研究報告書

SDGs を第5次新座市総合計画に活かす

令和3年11月9日

新座市議会総務常任委員会

委員長	島田久仁代
副委員長	鈴木 明子
委員	白井 忠雄
委員	伊藤智砂子
委員	小野 大輔
委員	米橋 結太

目次

- 1 はじめに（調査研究の目的と背景）
- 2 調査研究の経過
- 3 調査研究の方法
- 4 調査研究の内容
- 5 むすびに

1 はじめに

SDGs（Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標及びそれを実現するための169のターゲットで構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととしています。

新座市総合計画は、市が目指すべき将来都市像やまちづくりの基本的な方向性などについて総合的かつ計画的に定めるもので、市の最上位計画です。

市は、第5次新座市総合計画の策定に向け、令和元年10月から新座市総合計画審議会と同計画基本構想（素案）について検討を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の発生によりこれからのまちづくりの在り方を再度検討する必要が生じたこと、市の今後の財政見通しを立てることが難しくなったことから、計画の策定を2年先送りしました。

第5次新座市総合計画の策定においては、世界共通の目標であるSDGsの理念が的確に反映されるべきと考えます。

総務常任委員会では、「SDGsを第5次新座市総合計画に活かす」をテーマに設定し、調査研究を進めることとしました。

2 調査研究の経過

令和2年 6月 8日	政策研究に関する協議
令和2年 9月 7日	政策研究に関する協議、テーマの決定
令和2年10月29日	調査研究
令和2年12月 3日	調査研究

令和3年	3月	8日	調査研究
令和3年	6月	2日	調査研究
令和3年	9月	7日	調査研究
令和3年	11月	9日	調査研究

3 調査研究の方法

令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止と市の厳しい財政状況を考慮し、常任委員会の行政視察を中止することになりました。視察ができないことから、各委員において情報収集を行い、それを基に分析及び考察を行いました。

4 調査研究の内容

- (1) 持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組（編集・発行 外務省国際協力局）
- (2) SDGsの概要及び達成に向けた日本の取組（外務省国際協力局）
- (3) 第5次新座市総合計画基本構想素案（令和元年10月）
- (4) 神奈川県相模原市「未来へつなぐ さがみはらプラン ～相模原市総合計画～」
- (5) 埼玉県さいたま市「2030 さいたま輝く未来と希望^{ゆめ}のまちプラン」
- (6) 滋賀県大津市のSDGsに関する取組
- (7) 兵庫県高砂市「第5次高砂市総合計画（総合計画の推進が貢献するSDGs）」

【調査研究を通じて見えてきたもの】

- ・ 市民、事業者の皆様とSDGsについて一緒に考え、理解を深め、取組を進めていくことが重要であるということ。
- ・ その方法として、シンポジウムの開催や、企業とのタイアップ、研修会などが有効ではないか。
- ・ 個人、団体、事業者等ができる取組について、具体例を総合計画の中で分かりやすく示してはどうか。

5 むすびに

新型コロナウイルス感染症の拡大により、新たな社会課題が浮き彫りになりました。市民生活や地域経済が困難にぶつかる中、将来にわたって安心して住み続けられる持続可能なまちづくりや地域経済活性化のために、SDGsの理念を踏まえた施策の展開が求められています。今回の報告が、第5次新座市総合計画にSDGsの理念が反映される一助となることを期待します。